

株式会社 江合		<b>RC生産作業計画書</b>				
作成者	結城久恵	初期作成日	2020/12/16			
作業内容	プラント運転		安全衛生 統括者	石ヶ森信幸	安全衛生 責任者	加藤嘉明
使用機械	種類	RC-40ライン				
	処理能力	破碎	70t/h~100t/h	破碎機	回転数 3/rpm~5/rpm (超低騒音型)	
		振動フルイ	80t/h			
使用目的	小割したコンクリートガラを破碎・フルイ選別して、RC40を生産する					
担当 運転者	主：高橋融一 副：桜井信弘		資格 教育	安全作業講習 作業主任教育（はい作業） 職長教育		
作業場所	三丁目リサイクルプラント構内の提内地にて					
作業要領 と 安全要領	作業要領		安全事項			
	1. ショベルで粗碎ホッパーに小割ガラを投入 (別紙小割作業計画書による)		(別紙小割作業計画書による)			
	2. 粗碎：大きな石、鉄、木等があったら除去する。		必ずプラント電源をリモートで切ってから行う。			
	3. 細碎：鉄筋等が絡まったら除去する。					
	4. 磁選機：磁選機から落ちた鉄筋がシュートに溜まったら掻き落とす。		①安全帯を使用して行う。 ②鉄棒などが磁選機に近づかないようにす			
	5. 振動フルイ（粗碎用、細碎用） 1) 目詰まりの時は掻き下ろす等の対応をする。 2) RC40が大きくなり摩耗のチェックをする。 3) ダストが溜まったら除去する。		必ずプラント電源をリモートで切ってから行う。			
	6. ベルトコンベヤー（粗碎~細碎~RC40迄の全て） 1) ローラーの泥を除去して蛇行を防ぐ。(特に着雪) 2) 粗碎BC下のガラや土は常に清掃・除去する。 3) BCの摩耗・傷の有無をチェックする。		①鉄筋・ゴミの除去は、必ずプラント電源をリモートで切ってから行う。			
	7. 終業時ごとに、階段・通路の石やごみ類を除去し、必要な給油等を行う。		①石やごみの除去：踏んで捻挫や転倒の防止。 ②頭上フレームや突起部での頭や体のケガ防止のため、緩衝材で保護する。			
	8. 風向旗が南方向で粉塵が飛散すると判断したときは、即時停止する。					
9. RC40落下部を囲った防塵ネットの飛散防止状態確認		※安全帯は常時装着し、マニュアル以外でも一人KYの基づき適宜使用すること。 ※安全帯使用すべき各部所に、フックをかける位置にペイント表示する。				
(確認署名) ※ 改正都度に全作業員、及び初めて作業する者、は必ず本書での教育を受けて署名すること。						
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
・'20/12/16制定 ・'21/7/31改正 ・'22/7/16改定						

**配置図** (作業場所全体を示す平面図。必要に応じて側面図)  
 図示する事項  
 工作物・機械の配置・運行経路(幅員・ガードレール)・作業範囲(誘導者ガードレール・標識)  
 ・危険箇所立入禁止・安全通路・作業方法(順序・旋回方法) その他



降RCの粉塵  
飛散防止ネット



プラント全景



階段踊り場の  
清掃整理  
転落防止！



80ガラCB  
フレーム保護  
頭上注意！



RC40フラット  
BC下泥清掃  
転落防止！



細割周辺の  
フレーム保護  
頭上注意！

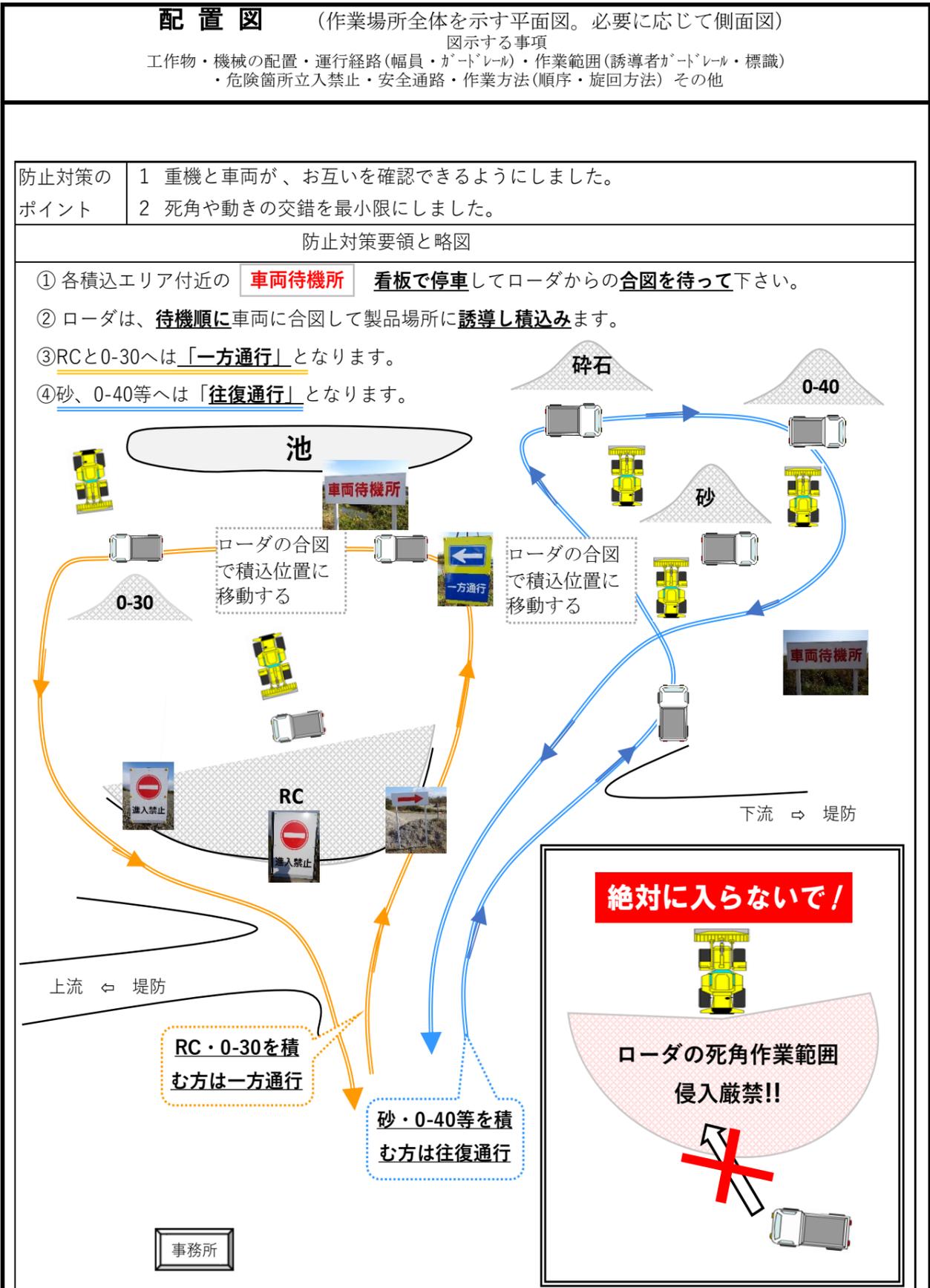


振動フルイ  
上部の保護

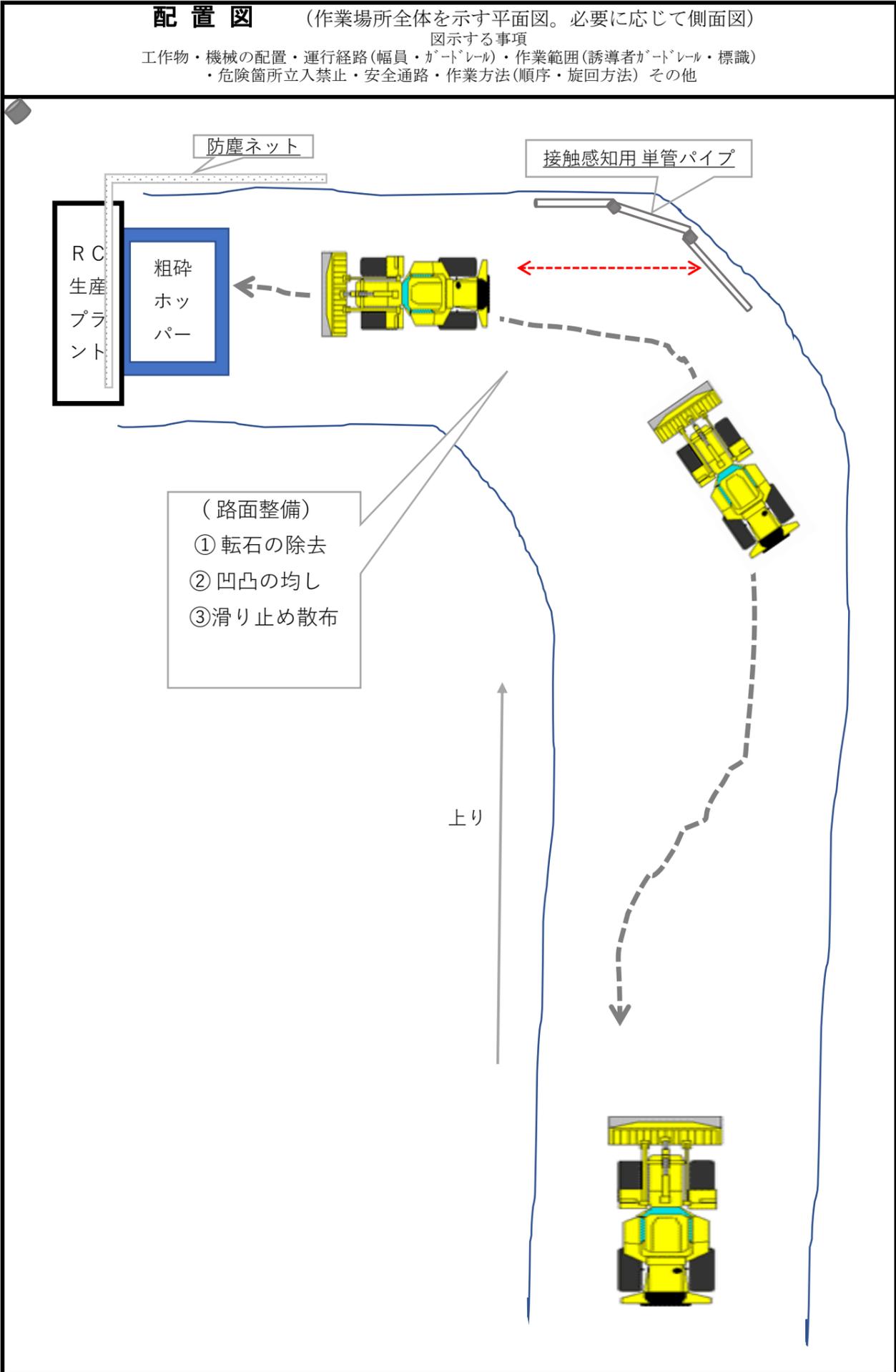


細割周辺  
フレーム保護  
頭上注意！

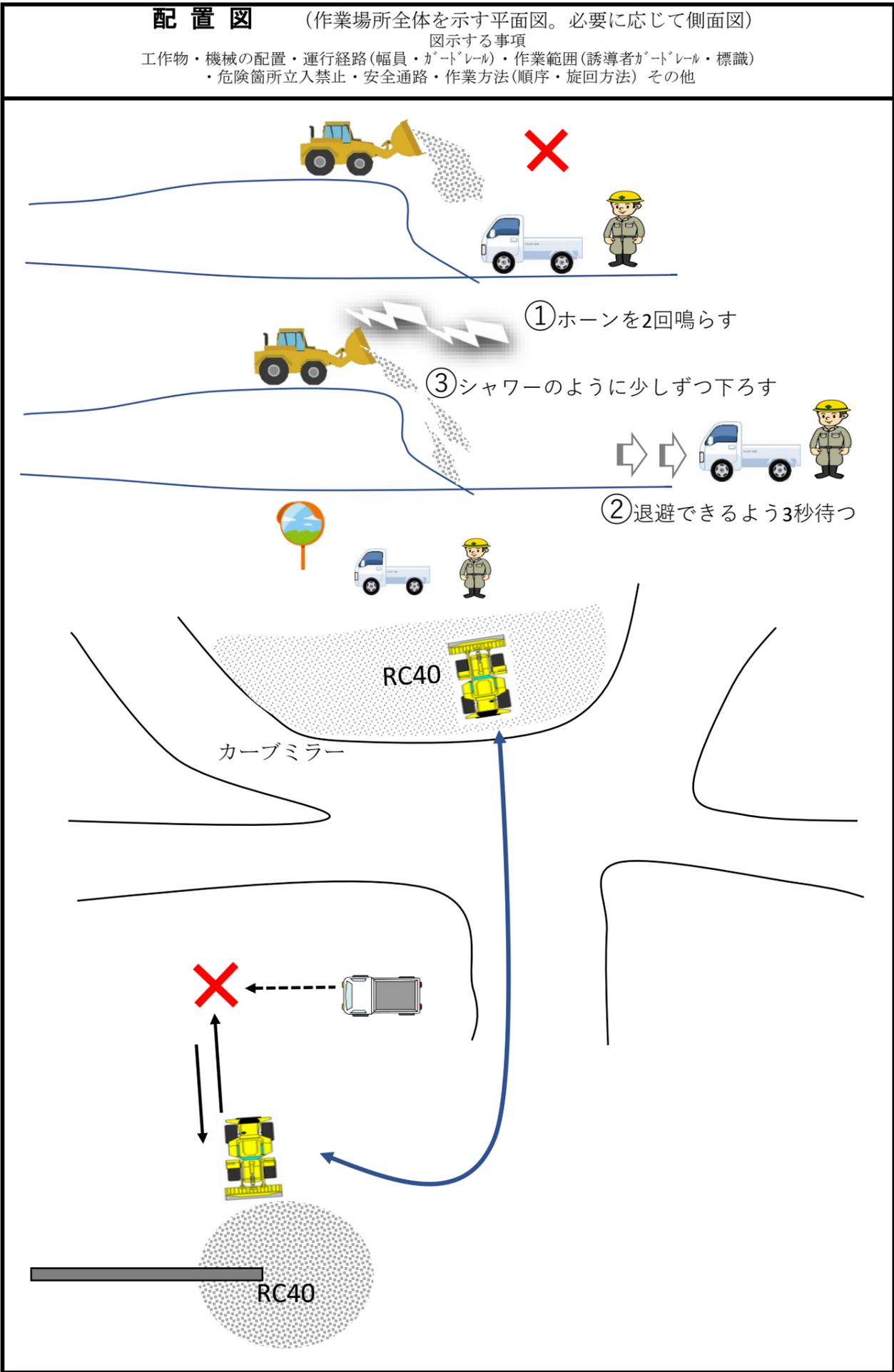
株式会社 江合		車両系荷役運搬機械作業計画書			
作成者	結城久恵	初期作成日	2020/12/9		
作業内容	積込		安全衛生統括者	石ケ森信幸	安全衛生責任者 加藤嘉明
使用機械	種類	トラクタショベル ZW140 (主)	トラクタショベル 70ZV (副)		
	能力	2.0 m <sup>3</sup>	3.4 m <sup>3</sup>		
	台数	1 台	1 台		
使用目的	製品 (砂、碎石、RC等) をお客様のトラックに積込む				
担当運転者	主: 千坂寛明 副: 桜井信弘		主: 高橋融一 副: 千坂寛明		
必要資格	車両系建設機械運転技能講習 (整地・運搬・積込及び掘削)		車両系建設機械運転技能講習 (整地・運搬・積込及び掘削)		
作業場所	三丁目リサイクルプラント構内の堤外地、堤内地にて				
作業要領と安全要領	作業要領		安全事項		
	1. 別紙構内運行規則図に則り、運行ルート of 厳守をトラックにも周知する。				
	2. トラック <u>運転手とアイコンタクトとホーンにて合図</u> し合ってから積込み作業に入る。		① 接近し過ぎて <u>タイヤを車体に当てない</u> よう、ゆっくり慎重に積込む。		
	3. トラックの <u>運転手側から積込み</u> する。		② <u>バケットを車体に当てない</u> よう、ゆっくり慎重に積込む。		
	4. バケットからトラックの荷台への下しは、衝撃がないよう静かに行う。		③ <u>傾斜地 (横、前後) では積込をしない</u> 。		
	5. 停車して <u>車両から離れる時は、都度必ずエンジンを切り、輪止め</u> をする。				
	6. 事務所と無線連絡を密にして誤納防止に努める。				
	7. 初めての方には、出荷係がチラシを配り説明し、オベに無線で伝える。				
	8. お客様には、感謝の気持ちで丁寧に接する。		※ <u>初め入場者には、チラシを送付して会社としての協力をお願いします。</u>		
(確認署名)	※ 改正都度に全作業員、及び初めて作業する者、は必ず本書での教育を受けて署名すること。				
	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日
	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日
・'20/12/10制定	・'23/5/1改定				
・'21/2/8改定	・'24/2/1改定				
・'22/7/16改定					



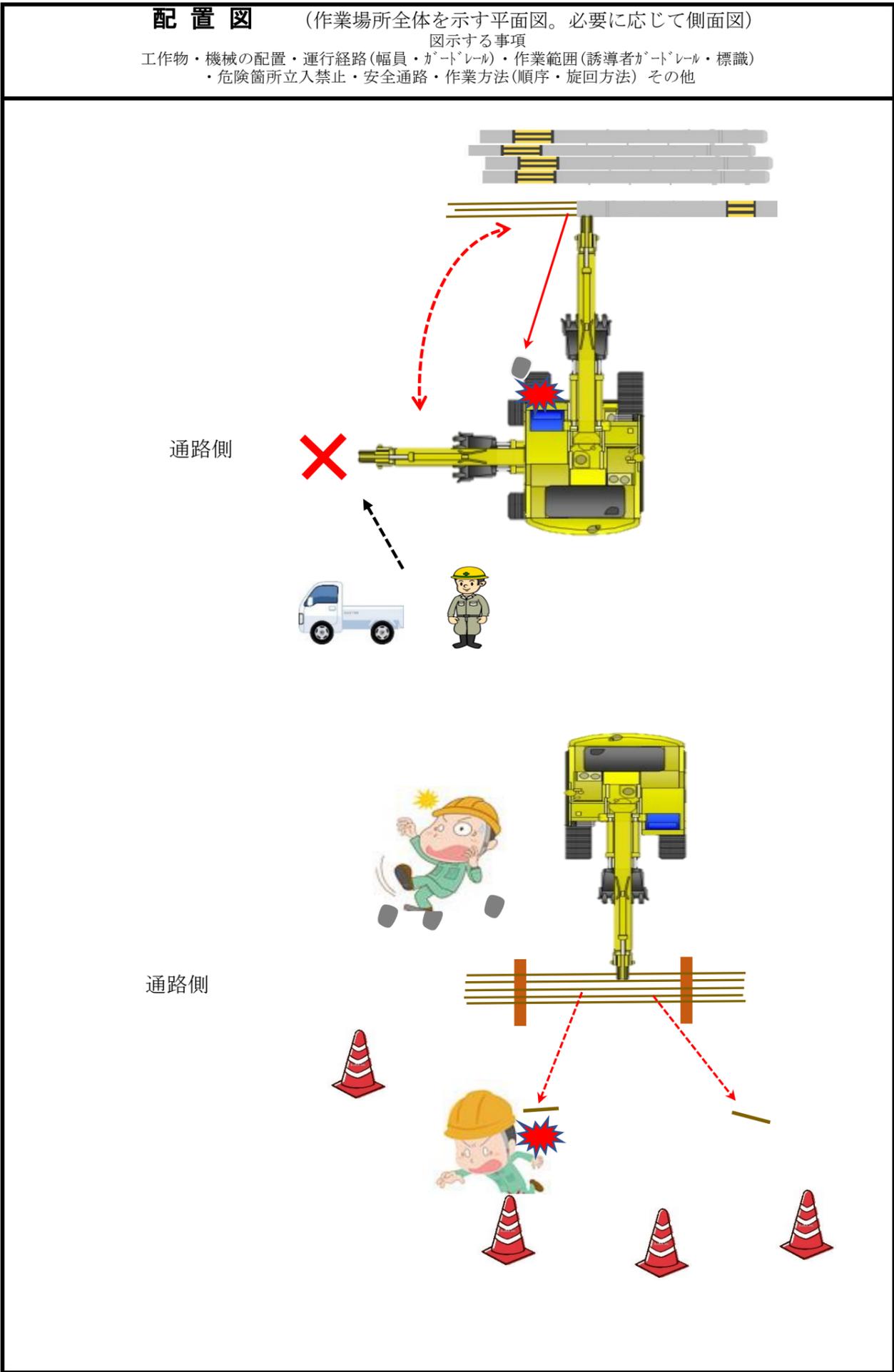
株式会社 江合						車両系荷役運搬機械作業計画書							
作成者		結城久恵		初期作成日		2020/12/9							
作業内容		小割投入				安全衛生統括者		石ヶ森信幸		安全衛生責任者		加藤嘉明	
使用機械	種類	トラクタショベル 70ZV (主)				トラクタショベル ZW140 (副)							
	能力	2.7 m³				2.0 m³							
	台数	1 台		1 台		1 台		1 台					
使用目的		小割したガラを粗砕ホッパーに投入する											
担当運転者		主：高橋融一 副：千坂寛明				主：千坂寛明 副：桜井信弘							
必要資格		車両系建設機械運転技能講習 (整地・運搬・積込及び掘削)				車両系建設機械運転技能講習 (整地・運搬・積込及び掘削)							
作業場所		三丁目リサイクルプラント構内の提内地にて											
作業要領と安全要領	作業要領					安全事項							
	1. 小割集積場から小割ガラをバケットに積み、スロープを登って投入する。					① 走行は <b>最低速</b> とする。冬季は一層抑制する。							
	2. スロープの上りは前進、下りは後進となるので慎重に低速で運転する。					② 後進時の注意。 ① 時々止まりながら方向の確認をし <b>転落防止</b> 及び後方の <b>人・車等の有無を確認</b> する。							
	3. 荷積みの有無を問わず、バケットは出来るだけ低い位置にして走行する。					② 特に <b>カーブを慎重に</b> 確認する。							
	4. スロープ表面の、転石や鉄筋の落下や凹凸がないかを常に確認して整備しておく。					③ <b>冬場は</b> 、凍結・圧雪に注意し、滑り止め散布等、 <b>滑落防止に必要な対策</b> を行う。							
	5. ガラに太い鉄筋・木材等がある時は、速やかにプラントを停止して除去する。					必ずプラント <b>電源をリモートで切</b> ってから行う。							
	6. 投入は破砕状況を見て、破砕機に負荷のかからないように適量ずつ下ろす。					※破砕ホッパーを防塵止ネットで囲う。							
	7. 停車して <b>車両から離れる時は、必ずエンジンを切り、輪止め</b> をする。												
	8. 不測の事態が生じたときは、すぐ無線で事務所に連絡対処を求める。												
	9. 掲揚の安全旗は破れが目立ったら交換する。					バランスを崩して転倒しないよう <b>安全带</b> を使用する。							
(確認署名) ※ 改正都度に全作業員、及び初めて作業する者、は必ず本書での教育を受けて署名すること。													
年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日	
年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日	
・'20/12/10制定		・'22/7/16改定											
・'21/2/8改定		・'23/5/1改定											
・'21/7/31改定		・'24/2/1改定											



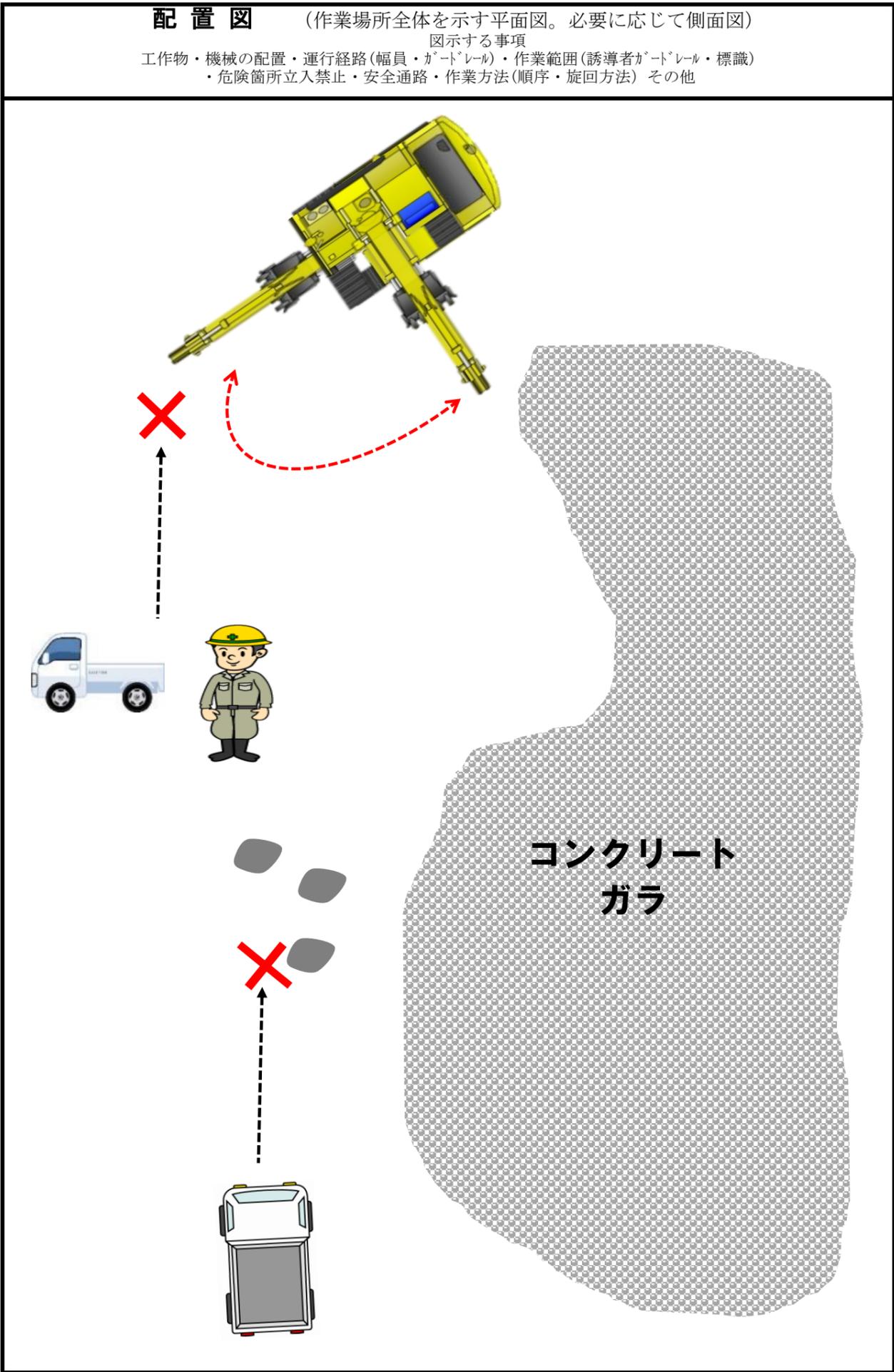
株式会社 江合		<b>車両系荷役運搬機械作業計画書</b>													
作成者	結城久恵	初期作成日	2020/12/9												
作業内容	RC中出し		安全衛生統括者	石ヶ森信幸	安全衛生責任者 加藤嘉明										
使用機械	種類	トラクタショベル 70ZV (主)		トラクタショベル ZW140 (副)											
	能力	2, 7 m <sup>3</sup>		2. 0 m <sup>3</sup>											
	台数	1	台	1	台										
使用目的	生産RCをストック場に移動する														
担当運転者	主：高橋融一 副：千坂寛明		主：千坂寛明 副：桜井信弘												
必要資格	車両系建設機械運転技能講習 (整地・運搬・積込及び掘削)		車両系建設機械運転技能講習 (整地・運搬・積込及び掘削)												
作業場所	三丁目リサイクルプラント構内の堤外地、堤内地にて														
作業要領と安全要領	作業要領		安全事項												
	1. 生産RCがある程度まで溜めてから行う。 粉塵の飛散を抑えるため。		生産RCをすくって後進する時、後方の狭い通路にトラック等がないか確認する。												
	2. すくって中出し、積込みする。		ショベルがすくい・積込作業の時 ①出荷係は、ショベル作業終わるまで台貫上の車に移動OKを出さない。 ②オペは廃材荷下ろし後の車が通過するまでは、ダンプに積み完了の合図を出さない。												
	3. 低速を確保して走行する。		走行時は、極力バケットを低い位置とし、重心と視界の確保をする。												
	4. ストック場に下ろす位置は先端に寄り過ぎないようにする。		ストック場のRC法面がオーバーハングにならないよう、常に勾配を保持する。												
	5. ストック場に荷下ろす前にホーンを2回鳴らし、更に3秒待ってから下ろす。		①死角の下方方向に人や車両がいる可能性があることを常に意識する。 ②危険防止を補うために、ミラーの設置等を検討する。												
	6. 荷下ろしは一気にしないで、少しシャワーのように下ろすこと。														
	7. RCストックがオーバーハングになっている時は、速やかにBHで崩して傾斜を確保する。														
8. 停車して車両から離れる時は必ず輪止めをする。		※ 出荷をしている時は中出し作業をしない。													
(確認署名) ※ 改正都度に全作業員、及び初めて作業する者、は必ず本書での教育を受けて署名すること。															
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>年月日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> </tr> <tr> <td>年月日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> </tr> </table>						年月日									
年月日	年月日	年月日	年月日	年月日											
年月日	年月日	年月日	年月日	年月日											
・'20/12/10制定    ・'23/5/1改定 ・'21/2/8改定    ・'24/2/1改定 ・'22/7/16改定															



株式会社 江合						車両系建設機械作業計画書								
作成者		結城久恵		初期作成日		2020/12/9								
作業内容		C P 柱処理				安全衛生統括者		石ヶ森信幸		安全衛生責任者		加藤嘉明		
使用機械	種類	Z X 2 1 0 L C K												
	能力	0.8m <sup>3</sup> 級 圧砕機型												
	台数	1		台								台		
使用目的		C P 柱を小割（潰し破碎）して、鉄筋を束ねて括り切断する。												
担当運転者		主：高橋融一 副：千坂寛明				必要資格		車両系建設機械運転技能講習（解体）						
作業場所		三丁目リサイクルプラント構内の提内地にて												
作業要領と安全要領	作業要領					安全事項								
	1. C P 柱1本ずつ山から下ろして、圧砕機で潰し破碎をしつつ、鉄筋と分離する。					①破碎時にコンクリート塊が飛ばないように注意する。 ②通路側に旋回する時は、 <u>旋回方向に人やトラックがないことを確認する。</u>								
	2. 圧砕機は必要以上に強く力を入れない。													
	3. 裸鉄筋は後方の作業台に移し、数本分溜まったら番線で数か所を括る。					足元のガラ等に足を取られて転倒しないよう、ゆっくり慎重に動く。								
	4. 括った裸鉄筋を適切な長さに圧砕機の奥歯で切断する。					①切断の時、鉄筋破片が前方広角に飛ぶので、 <u>周囲に人がいないことを確認</u> する。 ②前方広角の <u>保安距離を保つため、カラーコーンで区画</u> する。								
	5. 切断後の鉄筋は所定の場所に積み上げる。													
(確認署名) ※ 改正都度に全作業員、及び初めて作業する者、は必ず本書での教育を受けて署名すること。														
年 月 日			年 月 日			年 月 日			年 月 日			年 月 日		
年 月 日			年 月 日			年 月 日			年 月 日			年 月 日		
・'20/12/10制定 ・'21/2/8改定 ・'22/7/16改定														



株式会社 江合						車両系建設機械作業計画書								
作成者		結城久恵		初期作成日		2020/12/9								
作業内容		コンクリートの小割				安全衛生統括者		石ヶ森信幸		安全衛生責任者		加藤嘉明		
使用機械	種類	ZX200-6												
	能力	0.7m <sup>3</sup> 級 圧砕機型												
	台数	1		台								台		
使用目的		コンクリートガラを粗砕機に入る大きさに砕く。												
担当運転者		主：桜井信弘 副：高橋融一				必要資格		車両系建設機械運転技能講習(解体)						
作業場所		三丁目リサイクルプラント構内の提内地にて												
作業要領と安全要領	作業要領					安全事項								
	1. 圧砕機の無理のない大きさのものを挟んで、25cm程度に砕く。					① 通路と接近しているので、常に周囲に気を配り、 <b>人やトラックが作業範囲にいないかを確認</b> する。(旋回する時の衝突防止) ② 廃ガラや小割したガラが通路にはみ出さないよう注意する。								
	2. 大きい場合はこまめに少しずつ砕いていく。													
	3. 大きな負荷がかかりそうなときは、そのガラの処理を保留する。													
	4. 砕いた後に出た鉄筋クズを磁石で拾い集めて、まとめて鉄筋置場に置く。													
	5. 固い自然石や木材は除けて置き、後で集積する。													
(確認署名) ※ 改正及び再教育の都度、初作業従事の時、は必ず本書での教育を受けて署名すること。														
年月日			年月日			年月日			年月日			年月日		
年月日			年月日			年月日			年月日			年月日		
・'20/12/10制定 ・'21/2/8改定 ・'22/7/16改定														



株式会社 江合		夏期作業の酷暑・落雷対応計画書													
作成者	結城久恵	初期作成日	2022/7/16												
作業内容		安全衛生統括者	石ヶ森信幸	安全衛生責任者	加藤嘉明										
使用器具	熱中症指数モニター														
	WBGT値早見表														
	ラジオ														
目的	構内外の環境整備をするため。														
担当者	千坂寛明、桜井信弘、高橋融一、伊藤美恵	必要資格	なし												
作業場所	三丁目リサイクルプラント構内														
作業名	安全作業要領														
酷暑対応	1. 飲み物・塩飴を携帯し意識的に摂ること。														
	2. 気温や湿度の状況により、休憩を多くとる。														
	3. 体調不良：①少しでも不安な時は直ぐ申告する。 ②日陰に移し、水等で徐々に冷やし体温を下げる。														
	③改善せず、意識が不安定の際は救急連絡する。														
	4. WBGT値を計測し、熱中症予防対応を行う。														
雷雨対応	1. 当日の天気情報を確認しておく。														
	2. 黒雲が強く、ラジオの雑音がでたら、重機を降りての作業やRC生産作業は中断し、事務所で様子を見る。														
	3. 落雷が多くなったり近づく様子の時は、重機作業も中断して様子を見る。														
	4. 危険と判断する時は、お客様を避難誘導する。														
(確認署名) ※ 改正及び再教育の都度、初作業従事の時、は必ず本書での教育を受けて署名すること。															
<table border="1"> <tr> <td>年月日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> </tr> <tr> <td>年月日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> <td>年月日</td> </tr> </table>						年月日									
年月日	年月日	年月日	年月日	年月日											
年月日	年月日	年月日	年月日	年月日											
・'22/7/16制定															
・'24/6/10改定															

**配置図** (作業場所全体を示す平面図。必要に応じて側面図)  
 図示する事項  
 工作物・機械の配置・運行経路(幅員・ガードレール)・作業範囲(誘導者ガードレール・標識)  
 ・危険箇所立入禁止・安全通路・作業方法(順序・旋回方法) その他

**冷却のない労働の場のWBGT値と作業行動基準**

相対湿度(%)

	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
40	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
39	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43
38	28	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42
37	27	28	29	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41
36	26	27	28	29	29	30	31	32	33	34	34	35	36	37	38	39	39
35	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	34	34	35	36	37	38	38
34	25	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	37
33	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	32	32	33	34	35	35	36
32	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	31	32	33	34	34	35
31	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	30	30	31	32	33	33	34
30	21	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	29	30	31	32	32	33
29	21	21	22	23	24	24	25	26	26	27	28	29	29	30	31	31	32
28	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	30	31
27	19	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	28	29	29	30	30
26	18	19	20	20	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27	28	28	29
25	18	18	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28
24	17	18	18	19	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27
23	16	17	17	18	19	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26
22	15	16	17	17	18	18	19	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25
21	15	15	16	16	17	17	18	19	19	20	20	21	21	22	23	23	24

※ 出展の日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」Ver.1 2008.4 のWBGT値を基本に  
 当社用に2ポイントずつ上乗せして早めの注意を促すように加工したものを。

労働の場WBGT値	領域	最低限の行動基準
24℃未満	注意	通常作業の状態。6月からは水筒・塩飴を携帯。
24℃～27℃	警戒	要観察。早めに水筒・塩飴を摂取。
27℃～30℃	厳重警戒	頻繁に水分・塩飴を摂取。1時間毎休憩。
30℃以上	危険	頻繁に水分・塩飴摂取。40分毎休憩又は作業中断。

◎ 行動基準の判断はその場の上長の指示で、一人作業の場合は自主判断で、適切に対応すること。  
 対応に当たっては、我慢や躊躇は禁物とする。

令和6年6月10日制定

# 作動油の飛散対応計画書

作成者	結城久恵	初期作成日	2023/10/31		
作業内容		安全衛生 統括者	石ヶ森信幸	安全衛生 責任者	加藤嘉明
使用器具	オイルマット				
	砂				
目的	構内外の環境整備をするため。				
担当者	千坂寛明、桜井信弘、高橋融一	必要 資格	なし		
作業場所	三丁目リサイクルプラント構内外				

作業要領	安全事項
①作動油が漏れているのを確認したら即、エンジンを切る。	エンジンを停止することにより、余分なオイル漏れを防ぐ。
②場内作業者に事故発生を知らせる。	
③飛散した作動油周辺を砂で囲う。	砂で囲うことによって、油脂の拡散を防ぐ。
④オイルマットで吸着させる。	オイルマットの上に砂を被せることにより、重みでオイルマットへ吸着しやすくなる。
⑤オイルマットと砂とともに土壌に浸潤した部分も取り除く。	浸潤範囲を減らせば、降雨による流出も防げる。
⑥指定処分場にて焼却処分。	

(確認署名) ※ 改正及び再教育の都度、初作業従事の時、は必ず本書での教育を受けて署名すること。

年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

・'23/11/1制定

## 配置図 (作業場所全体を示す平面図。必要に応じて側面図)

図示する事項  
 工作物・機械の配置・運行経路(幅員・ガードレール)・作業範囲(誘導者ガードレール・標識)  
 ・危険箇所立入禁止・安全通路・作業方法(順序・旋回方法) その他

① ②



④

